

東北地方の樹木方言 (第1報)

佐藤正己*

Masami SATO : Notes on the Local Names of Trees Collected in
Tōhoku-District, Japan (1)**

緒言

我々が樹木の生育している現地から、研究資料を得ようとする場合に、正しい和名で呼んだのでは、現地の人に通用しないことが屢々ある。その様な場合には、どうしても方言を用いなければ目的を達することが出来ない。そこで筆者はかねて山形県の植物方言を調査してきたが、これを基礎として漸次に調査区域を東北地方全体に及び、更に日本全国にまで及ぼし、植物方言辞典完成への寄与を念願して居るが、斯様な大事業は到底短日月では完成し得るものではないので、此処にその調査の一部を発表し、この方面に関心を有する諸賢の御批判と御協力を乞う次第である。

本論をまとめるためには、実に多数の方々の御協力を得たが、中でも特に多数の貴重な資料を寄せられたのは、古家儀八郎(秋田)、三春伊佐夫・若松多八郎・高橋信雄(山形)、池上義信・岩野俊逸・渡辺貞吉(新潟)、小林勝(福島)、浅野貞夫(千葉)の諸氏である。文献調査に就いては、山形東高校の斎藤義七郎教官、並に東京本郷の木内書店主人に非常に御世話になった。また本稿をまとめるに当つては、国語学上の諸問題に就いて、山形大学文学部の喜多義勇・田島福重両教授より有益な教示を得た。特に記して厚く感謝の意を表す。

(1) ミズキ (*Cornus controversa* HEMSL.) の方言

ミズキは北海道・本州・四国・九州の山野に普通に産する樹種であり、材は白色で種々の細工物の原料として広く利用されるので、日本全国では相当数の方言がある。

東北地方では旧正月に、ミヅキの枝に團子をつけて豊年を祈る風習があり、これに起因した方言、例えばダンゴ、ダンゴギ、ダンゴヌキ、ダンゴノキ、ダンゴボク等が東北地方に広く通用し新潟縣の一部に及んでいる。たゞ不思議なことに、秋田縣ではこの風習が一般的に行われているにも拘らず、團子に関連した方言がなく、全く別の名で呼ばれている。

團子の代りに繭玉と云う米の粉をこねて繭の形に作ったものをミズキにさして、小正月(1月14、5日を中心とした正月)又は2月初午に蚕神に供えて蚕の安全を祈る習慣から、繭玉の木と云う意味でマイダマノキ、マユタマノキ、メエダマノキ等の方言が、青森・岩手・宮城・新潟・長野の諸縣下に通用している。

現在は殆んど通用しないナシナラシギと云う方言が山形縣下にあるが、これは梨の形をした小さい餅玉をミズキにつけて豊年を願う風習からきたもので、現在でもこの飾りをナシ又はナシナラシと呼んでいるが、ならせる木の方に対してはミズキと云う正しい呼び名が一般的になつた。

* 山形大学農学部応用植物学研究室 (山形縣鶴岡市新屋敷町)

** Contributions from the Laboratory of Applied Botany, Faculty of Agriculture, Yamagata University. No. 18 (Oct. 1952).

子供の遊戯に起因する方言がよく見られるが、文化の程度が低く、貧しい東北の山村の子供達は自然の草木を玩具として用いることが多く、この種の方言が少くない。何十日も雪の下に閉込められた東北地方の山里の子供達は、春の光の中に飛出して、赤い美しい木肌のミズキを見つけると、その鉤状に曲つた枝を折取つて、互に引掛けて引張り合うかぎ引き相撲の遊びをする。この遊びから生れたカギシバ、カギッコ、カゲッコ、カゲビキ、カギンコノキ、スモートリノキ等の方言が、青森・秋田・長野・新潟の諸縣にある。

ミズキと云う和名がもともと水に縁のある名であるから不思議ではないが、方言にもミズを語幹とし、これに然るべき接頭語又は接尾語を附したものが多し。アカミズ、カサミズキ、カラカサミズキ、クルマミズキ、ミズカス、ミズクサ、ミズシ、ミズノキ、ミズブサの類で、その大部分が西日本に流通し、東北地方では稀である。

早春この木の肌が美しい赤色を呈することは日本全国で共通の現象で、アカイキ、アカキ、アカシバ、アカハシカ、アカミズ等の方言がとびとびではあるが、岩手・長野・高知・熊本と全国的に分布している。

ミズキの方言で関西以南に特有のものはハシカを語幹とする語で、アカハシカ、クルマハシカ、ハシカギ、ミズノバンカ等が四国を主とし、近畿地方にもある。

ミズキの材は心材と辺材の区別なく白色で、緻密な均質であり、しかも軟かくて細工が容易なのでろくろ挽に適し、東北地方ではコケン人形とか其の他の玩具や細工物にされる。然しその材が白いことに着目した方言は東北地方にはなく、シラキ又はシロキの名で高知縣下に流通しているだけである。

秋田縣仙北郡にミロクと云う方言があるが、このミロクは佛教で云う弥勒の意で、山梨縣西八代郡では正月14日にミズキに餅花を飾り、部屋中が明るくなつたような有様を「ミロクの浄土のようだ」と云う由である。また福島縣伊達郡霊山村では、ミロクの世に飢饉があつて食うものに困つた時、たまたま山に行くとき山の木に團子がついていてそれを食べて飢饉を免れたと云うので、正月14日年取りは團子の年取りと呼び、團子を飾りつけその夜に年取りをすると云う。岩手縣紫波郡でも、この木に團子をつけたものをミロクと呼ぶそうであるが、樹木方言としては見当らない。

ミズキの方言として筆者が全国から記録し得たものは次の通りである(府縣名に続く括弧内には郡市名を示し、時には島の名や、數郡を含めた地方名を記す場合もある)。

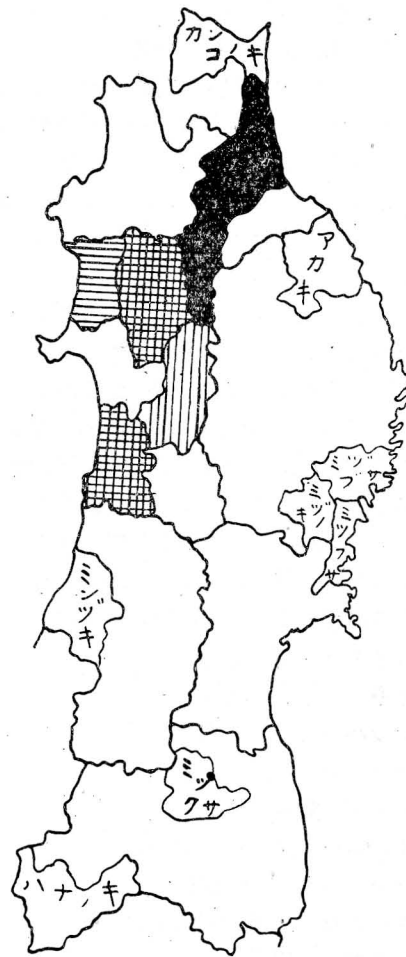
アカイキ 長野(佐久)	カギサマノキ 栃木(芳賀)
アカキ 岩手(九戸)	カギシバ 秋田(北秋田, 山本, 由利)
アカシバ 岩手(九戸)	カギノキ 秋田(北秋田, 仙北, 由利)
アカハシカ 高知(高岡)	カギッコ 青森(上北), 秋田(鹿角)
アカミズ 熊本(下益城)	カギッピキ 茨城
アカンボー 長野(下水内)	カギフカケ 秋田(山本)
イツキ 兵庫(播磨地方)	カギンコノキ 新潟(刈羽)
ウシナカセ 静岡(駿河地方)	カゲッコ 長野(上水内)
ウワミズ 石川	カゲバリ 青森(津軽地方)
オオアメフリ 佐賀(藤津)	カゲビキ 秋田(鹿角, 由利)
オンナミツビシャ 岩手(気仙)	カゲビコ 秋田(由利)
カギコシバ 秋田(北秋田)	カサミズキ 岡山(備中地方)

- カラカサミズキ 鳥取 (気高, 東伯)
- カンコノキ** 青森 (上北)
- クサミズ 茨城
- クルマハンカ 高知
- クルマバンカ 三重, 和歌山
- クルマミズキ 滋賀, 三重, 和歌山, 鳥取 (伯耆地方), 高知 (幡多, 土佐), 徳島 (海部, 美馬), 愛媛 (新居)
- クロミズキ 滋賀
- シラキ 高知 (安芸)
- シロキ 高知 (香美, 安芸)

- スモートリノキ 新潟 (刈羽)
- ダンゴ** 岩手 (気仙), 宮城 (名取)
- ダンゴギ** 山形 (飽海, 鶴岡, 西田川, 最上, 北村山), 福島 (信夫, 伊達)
- ダンゴヌキ** 山形 (北山村)
- ダンゴノキ** 青森 (中津軽), 岩手 (釜石, 西・東磐井, 岩手, 下・上閉伊), 山形 (飽海, 西田川, 最上, 東・西・南・北村山, 東・西置賜, 米沢), 宮城 (宮城, 名取, 柴田, 伊具, 刈田, 亙理), 福島 (福島, 南会津), 新潟 (刈羽), 茨城, 長野 (下水内)



第1図 ミツギの方言分布図 (1)
 黒くぬりつぶした区域はダンゴギ, ダンゴノキ, ダンゴボク, 黒点でうめた区域はダンゴの分布を示す



第2図 ミツギの方言分布図 (2)
 黒色区域はカギッコ, 横線区域はカギシバ, 縦線区域はカギノキ, 縦横線区域は両者の共存を示す

- ダンゴボク** 青森 (上北)
トリアシ 静岡
ナシナラシギ 山形 (鶴岡)
ネズラ 石川
ノバシカ 高知 (安芸, 幡多)
ハナノキ 福島 (南会津)
ハシカ 高知 (高岡)
ハシカギ 高知 (高岡)
ハシカノキ 滋賀
ホンミズキ 鳥取 (気高)
マイダマノキ 青森 (上北), 新潟 (刈羽)
マユタマノキ 岩手, 宮城 (本吉)
ミジヒサ 岩手 (気仙), 宮城 (本吉)
ミズカス 島根 (隠岐)
ミズクサ 岩手 (気仙), 宮城 (伊具, 柴田)
福島 (信夫, 安達), 新潟 (刈羽), 千葉 (君津, 夷隅), 東京 (大島, 八丈島), 埼玉, 神奈川, 静岡 (足柄, 伊豆地方), 山梨, 長野 (下高井)
ミズシ 大分 (大野, 直入, 速見, 西・北海郡, 宇佐, 下毛, 玖珠), 福岡 (八女), 佐賀 (小城), 熊本 (球磨, 下養城, 鹿本), 以上拾い集めた70通の方言の中で, 東北地方に通用するのは31通あり, その中で25通は東北地方特有のもので, 全体の35.7%強を占めるから, 可成の特有性を有するものと見做すことが出来る。
- 菊池, 八代), 宮崎 (宮崎, 西・北諸縣, 兒湯, 東臼杵, 南那珂), 鹿兒島 (肝屬)
ミツチ 鹿兒島 (出水)
ミズツキ 埼玉, 山梨
ミツツシ 鹿兒島 (川内地方)
ミスノキ 岩手 (東磐井), 宮城 (伊具, 柴田, 刈田), 福島, 茨城, 石川, 福井
ミズノバシカ 高知 (幡多)
ミズバシカ 三重, 和歌山 (紀伊地方), 高知 (香美, 長岡, 土佐, 幡多, 安芸), 愛媛 (上浮穴)
ミズブキ 静岡 (遠江地方)
ミスフサ 岩手 (東磐井), 宮城 (本吉)
ミズブサ 岩手 (気仙), 群馬 (利根), 長野, 静岡
ミズユス 長崎 (上・下縣)
ミロク 秋田 (仙北)
ミンズキ 山形 (東・西田川)
メエダマノキ 宮城 (本吉), 長野 (佐久)
メアダマノキ 青森 (北津軽, 上北), 宮城
モチシバ 岩手 (九戸)
リュージンヤナギ 和歌山 (日高, 西牟婁)

(2) ヤマボーシ (*Cynoxylon japonica* NAKAI) の方言

ヤマボーシは我が国の山地に生ずる落葉喬木で, ミズキと近縁の種であるが, 4枚の花弁状を呈する大形白色の総苞片を生ずるので, 花時は中々美しい木である。近來北米原産のアメリカヤマボーシ (ハナミズキ) を庭園樹として輸入したが, 本種もこれに負けない園芸価値があると思われる。

東北地方では一般にヤマグワ (山桑) 又はその訛つたヤマカ, ヤマガ, ヤマガン, ヤマゴワ等が廣く分布している (第3図参照)。

ヤマボーシの古い学名 (*Cornus Kousa* HANCE.) の *Kousa* は箱根附近の方言クサに基くものとされているが*, クサは決して草の意ではなく, その語源は不明である。樹木の方言でクサと称するものはこればかりではなく, 例えばミズキの方言にミズクサ, ネムノキの方言にネムタグサやネムリグサがある。

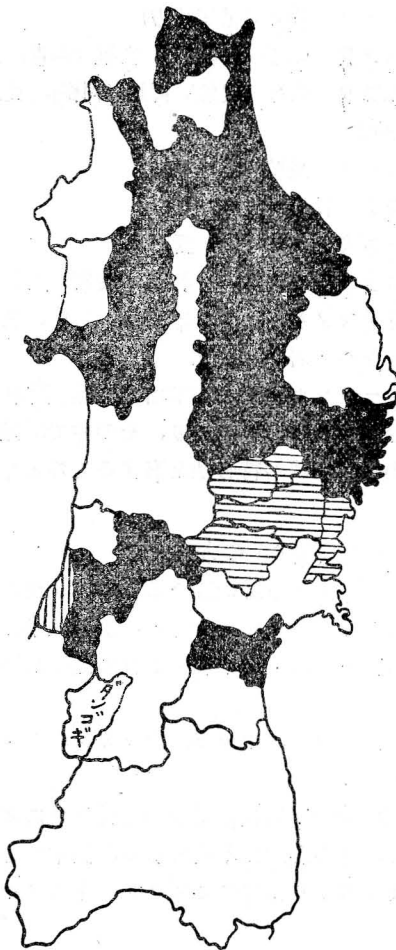
山形縣の置賜地方ではミズキよりもヤマボーシが多く産し, 圍子木としてもヤマボーシを使うので, 他地方ではミズキの方言であるダンゴキがヤマボーシの方言となつている。

ヤマボーシの方言として筆者が今日まで集録し得たものは次の通である。

* 沢田武太郎: *Kousa* ノ 辯 (植物研究雑誌 5: 26-28, 1928)。

イツキ 新潟 (刈羽), 富山, 石川, 福井,
岐阜, 和歌山, 三重, 兵庫 (但馬地方),
鳥取, 高知 (土佐, 長岡), 愛媛 (新居)
イツギ 岡山
イッツキ 石川 (加賀地方)
インシロ 佐賀 (藤津)
ウツキ 岡山 (備中地方), 広島, 鳥取 (日
野)
ウツギ 岡山, 鳥取 (全縣下)
ウツキボーン 広島
オツキ 島根 (出雲地方), 鳥取 (全縣下)

オツキノミ 広島 (佐伯)
オッチボー 広島 (山縣)
クロガネモドキ 愛媛 (上浮穴)
サルナメシ 埼玉
ジゾーガシ 長崎 (上縣, 下縣)
セツバナ 静岡
ソバギ 高知 (土佐)
タカチ 長崎 (上縣, 下縣)
タカツェ 長崎 (上縣, 下縣)
ダンゴギ 山形 (西置賜)
トリノアシ 静岡, 三重 (紀伊地方), 大阪
(攝津地方), 兵庫, 和歌山 (紀伊地方)
ニオオガシ 高知 (長岡)
ヒャクジッカ 静岡
モチシバ 愛媛 (宇摩)
ヤマカ 岩手 (上閉伊)
ヤマガ 青森 (東・南津軽, 上北, 下北,
三戸), 秋田 (北・南秋田, 河辺), 岩手 (気
仙, 胆沢, 九戸, 釜石, 紫波, 二戸, 稗
貫), 山形 (東田川)
ヤマカシ 宮城 (宮城)
ヤマガノキ 青森 (上北)
ヤマガン 岩手 (江刺, 胆沢, 東・西磐井),
宮城 (玉造, 栗原, 本吉)
ヤマクワ 岩手 (上閉伊), 宮城 (名取, 宮
城, 栗原), 新潟 (刈羽)
ヤマグワ 青森 (東・南津軽), 岩手 (稗貫,
紫波), 宮城 (宮城, 柴田, 伊具, 刈田,
加美, 黒川), 秋田 (北・南秋田, 仙北),
山形 (最上), 茨城, 神奈川, 静岡
ヤマクワン 新潟
ヤマゴ 岩手 (気仙), 山形 (西田川)
ヤマゴワ 山形 (東田川)
ヤマツカ 千葉 (夷隅), 埼玉
ヤマツカワ 山梨, 静岡 (伊豆地方)
ヤマモモ 広島 (佐伯), 愛媛 (上浮穴, 新
居), 高知 (土佐)
ヤマンガ 岩手 (紫波)
ヤマングワ 福島 (信夫, 伊達)



第3図 ヤマボーン方言分布図
黒色区域はヤマカ, ヤマガ, ヤマグワ, 横線区域
はヤマガン, 縦線区域はヤマゴの分布を示す

上記の37通の方言の中で, 東北地方に通用するのが12通, その中には他地方と共通のもの

が2通で、10通 (27%) が東北地方だけにしか見られないものである。

(3) クロモジ (*Lindera umbellata* THUNB.) と

オーバクロモジ (*L. membranacea* MAXIM.) の方言

クロモジは北海道の南端から九州まで分布するので、その方言も多数ある。またオーバクロモジも大体似た分布を示し、実際には両者が混同されているから、一緒にして取扱うことにした。

クロモジの葉には黒文字油と呼ばれる芳香性の油があり、伊豆半島を主として各地で油をとつているが、この芳香油に関する方言としてはアブラギだとかショーノノキがある。また菓子用の大形皮付揚子が屢々この木から作られるので、ヨージノキとかヨジキの方言もある。東北地方で最も普通的な方言はトリキ又はそれに関連したトリキシバ、トリコシバ、トリシバ、トリコノキ、トリノキ等である (第4, 5図参照)。その語源に就いては十分納得の行くものがないが、種々の神事や狩猟に関係がある様に思われる*。

トリキ系統の方言に次いでモンジャ系統が広く全国的に分布している。語源は明瞭でないが、古くはクロモジのモジをモンジャと云つたらしいが、果してこのモジが文字の意かどうか疑問である。現在ではクロモジは黒文字の意で、樹皮上に出来る黒斑を文字に見たてたものだと一般に推定されているが、地衣類のモジゴケの様に明瞭な形のものならばいざ知らず、多少無理がある様に思われる。モンジャの語源をさぐつたら何か得る所があるかも知れない。宮城縣にはモージャノキ (亡者の木) と云う変つた方言がある。

クロモジ及びオーバクロモジの方言を列記すると次の通りである。

アブラギ 高知 (土佐, 香美, 長岡, 安芸)

ジシャ 長野 (東筑野)

オガタマ 和歌山 (那智山)

ショーノノキ 山形 (飽海)

クマヤナギ 宮城 (刈田)

ショーガキ 熊本 (球磨)

クロジシャ 新潟 (南蒲原)

トリキ 青森 (三戸), 秋田 (北・南秋田,

クロトモギ 高知 (土佐)

鹿角), 岩手 (岩手, 九戸, 稗貫, 紫波,

クロモジャ 愛媛 (上浮穴)

和賀, 江刺), 宮城 (名取, 刈田, 玉造,

クロモミジ 長野 (下水内)

加美, 黒川, 宮城, 柴田, 栗原), 山形 (東・

クロモンジ 山形 (東・西田川), 新潟, 埼

西田川, 北村山, 西置賜), 新潟 (岩船,

玉 (秩父), 山梨 (南都叡), 静岡 (小笠,

北・東蒲原, 北魚沼)

駿東), 岐阜 (古城, 揖斐)

トリキシバ 青森 (南・北津軽, 上北, 下

クロモンジャ 新潟 (佐渡), 静岡, 高知 (長

北, 三戸), 秋田 (鹿角, 北・南秋田, 河辺,

岡, 安芸, 土佐), 愛媛 (上浮穴)

仙北, 由利), 岩手 (岩手, 気仙), 宮城 (名

クロモンジュ 高知 (幡多, 安芸, 高岡,

取)

長岡)

トリコシバ 青森 (津軽地方), 秋田 (北・

クロモンジョ 高知 (安芸, 土佐), 愛媛 (宇

南秋田, 山本), 岩手, 宮城

摩)

トリコノキ 岩手 (下閉伊, 二戸)

クロモンジョー 新潟 (土樽山の家附近)

トリシバ 青森 (上北, 下北, 九戸, 西津

クロモンゾー 山梨 (西八代)

軽), 岩手 (下・上閉伊, 釜石, 紫波, 稗

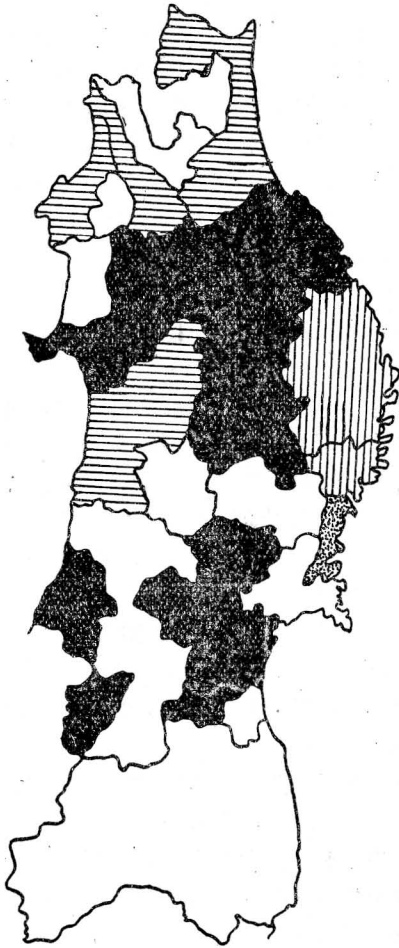
コージバナ 埼玉 (秩父)

貫, 気仙)

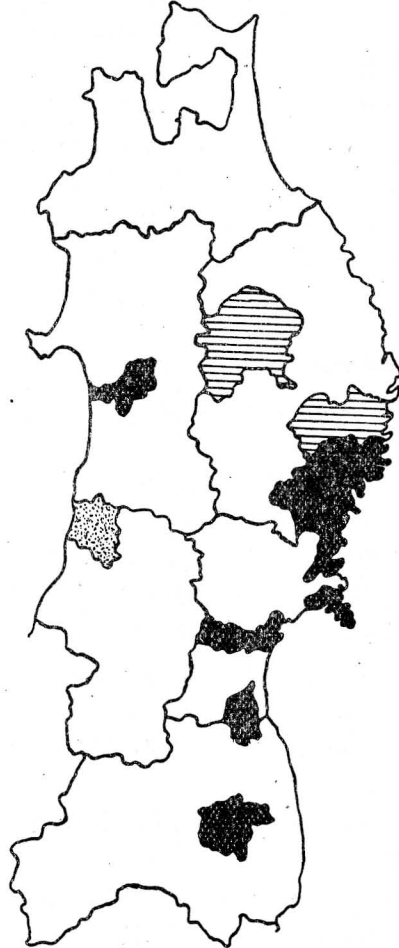
* 柳田国男: 知りたいと思うこと二三, クロモジと云う木のこと (民間傳承 15: 519-529, 1951).
森谷周野: トリキと神の木 (同上 16: 6-9, 1952)

- トリノキ 岩手 (二戸), 山形 (西置賜)
- トリハゴノキ 鳥取
- ハシギ 宮城 (宮城)
- ハトリキ 宮城 (本吉)
- フクギ 鳥取 (因幡地方), 島根 (隠岐島), 岡山 (小田)
- ボージャノキ 宮城 (本吉)
- マンクサ 群馬 (勢多)
- モジノキ 宮城 (刈田, 柴田)
- モチギノキ 鳥取
- モチバナギ 兵庫

- モンシャ 山梨 (南・北都函)
- モンジャ 秋田 (河辺), 岩手 (東磐井, 気仙), 宮城 (本吉, 宮城, 牡鹿, 伊具), 福島 (田村), 新潟 (佐渡), 群馬 (勢多)
- モンシャノキ 山梨 (富士)
- モンジャノキ 岩手 (気仙), 宮城 (宮城, 本吉), 福島 (田村), 群馬 (勢多)
- モンチャ 宮城 (仙台)
- ヨジキ 岩手 (二戸, 岩手)
- ヨージノキ 岩手 (上閉伊), 長野 (北安曇, 佐久)



第4図 クロモジの方言分布図 (1)
 黒色区域はトリノキ, 横線区域はトリキシバ, 縦線区域はトリシバ, 黒点区域はハトリギの分布を示す



第5図 クロモジの方言分布図 (2)
 黒色区域はモンジャ又はモンジャノキ, 横線区域はヨジキ又はヨージノキ, 黒点区域はショーノキ及びモチノキの分布を示す

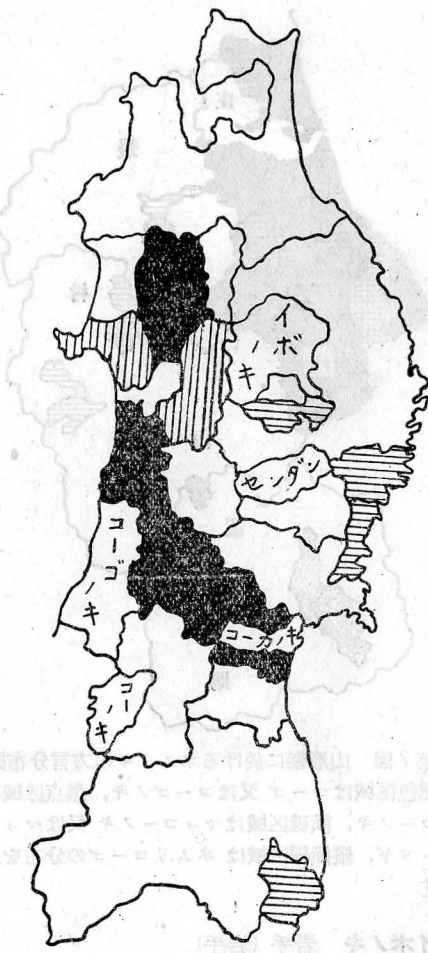
上記の全国の方言39通の中で東北地方に通用するものは18通で、その中の13通 (全体の33.3%強) が東北地方に特有なものである。

(4) **ネムノキ** (*Albizia Julibrissin* DURAZ. var. *speciosa* KOIDZ.) の方言

ネムノキは我が国の山野に普通に生ずる落葉喬木で、この属のものは東亜の南方諸地域では有用材を提供するが、我が国に産するものは大した利用価値は無い。然しその小葉が夜間閉じることには一般に注目され、睡眠に関連した方言は全国に廣く行われている。

眠りに関する方言に次いで廣く行きわたつて居るのは、この木の漢名である合歡木から起つた方言である。合歡木の字音から訛つて、コーカンボク、コーカンボ、コーカン、コーカ、コーケ又カアカーと色々な方言が出ているが、何れも同系語と認めることができよう。たゞ此処に問題になるのは、新潟縣の一部から山形縣庄内地方に廣く分布しているコーゴ又はコーゴノキの語源である。一般には抹香を作る木と云う意味と信じられているが、果してそうであるか。コーノキとかマッコ、マッコノキと云う方言は明に抹香を作る木の意であるが、指小辭 (diminutive) 以外には殆んど語尾にコを附加する習慣のない庄内方言ではコーゴの成立する意味が明瞭でない。日本語では母音のずれは極めて普通の現象の様であるから、Kō-ka-n から Kō-ke や Kō-ko が生れ、濁音化して Kō-go になる変化はさして不自然なことではない。更に面白いことは、偶然の一致かも知れないが、台湾の高雄州や台東廳のパイワン族もネムノキをコーコと呼んでいると云うことである。*

東北地方の方言を深く研究された、東北大学の小林好日教授は、方言地理学的に見て、山形縣の庄内地方だけは同縣下の他の諸地方から切離して、北奥方言区に編入すべきであるとして居られるが、** ネムノキの方言に就いても、この説は正しい様に思われる。即ち山形縣の日本海沿岸の庄内地方では、コーゴ系統の方言が圧倒的に通用しているにも拘らず、内陸の最上・村山・置賜の諸地方にはこの種の方言は全く見られず、専らネム系統の方言が使われている。そして抹香を作る木と云う意味のマッコノキ又はマッコヌキと云う方言が、夫々最上地方と村山地方とに僅にあり、置賜地方にはコーノキが



第6図 ネムノキの方言分布図

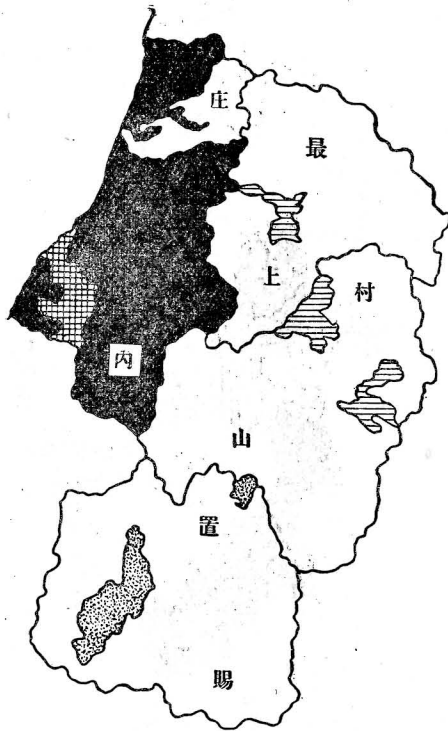
黑色区域はマッコ、マッコノキ、マッコヌキ、横線区域はコーカンボク又はコーカンボ、縦線区域はデゴクバナ又はデゴクサイカチの分布を示す。

* 佐々木舜一：台湾主要樹木方言集 (1933) p. 89

** 小林好日：東北六縣の方言の言語地理学的研究 (1941) 及び東北の方言 (三省堂, 1944)

見られるだけである。たゞ此処で注意しなければならないことは、コーゴ系統の方言が、山形県の庄内地方と新潟縣の一部にあるだけで、他の区域に全く見られないことと、置賜地方の方言コーノキが、庄内地方にも稀にあることである。更に面白いことに庄内地方の南部にコーゴ系統とネム系統とをつきまぜたネムリコーケとネムリコーゴ又はネムリッコがあることで、簡単に分布区域を確然と定められないことを示している。

秋田縣特有の方言で、ジゴクサイカチ、ジゴクバナ、ジンゴクマッコがあるが、何故に地獄と関連させたものであろうか。秋田方言では、この他にも地獄を接頭語としたものがあり、例えばサルトリイバラをジゴクイバラ或はジゴクバラと呼び、トクダミをジゴクソバと云うが、この方は痛い刺があつたり、悪臭があつたりして人に嫌われる理由が明瞭である。ネムノキに関する日本各地の方言を列記すると次の様なものがある。



第7図 山形縣に於けるネムノキの方言分布図
 黒色区域はコーゴ又はコーゴノキ、黒点区域はコーノキ、横線区域はマッコノキ又はマッコノギ、縦横線区域はネムリコーゴの分布を示す

イボノキ 岩手(岩手)
ウシゴメ 岡山(小田)
ウシノコメ 岡山(備前・備中地方)、島根(隠岐)
ウシヤッコ 岡山(備前北部)

オコノキ 長野(下水内)
カアカア 兵庫(但馬地方)、鳥取(因幡地方)、島根(石見地方)
カアカノキ 島根(簸川)、鳥取(全縣下)
カカノキ 島根(出雲地方、隠岐)
コーカ 新潟、埼玉(熊谷附近)、静岡、滋賀、兵庫、大阪、岡山、広島、鳥取、愛媛(宇摩)、徳島(海部)、高知(高岡、幡多、長岡、安芸)
コーカイ 岡山、広島、山口、福岡
コーカイギ 鳥取、岡山、広島
コーカギ 愛媛(宇摩、温泉、上浮穴)、徳島(美馬)、高知(幡多、高岡、土佐、香美、安芸、長岡)
コーカノキ 宮城(宮城)、新潟(佐渡)、福井、三重、和歌山、岡山、福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島(鹿屋地方)
コーカン 愛媛(東・南豫地方)、熊本(下益城)
コーカンボ 福島(石城)、茨城(猿島、眞壁、久慈、那珂、西茨城)
コーカンボク 岩手(稗貫、胆沢、気仙)、宮城(本吉)、茨城(多賀)、静岡(駿河・遠江地方)
コーケ 長崎(壹岐)
コーケン 長崎(上縣、下縣)
コゴ(又はコーゴ) 山形(飽海、鶴岡、東・西田川)、新潟(西蒲原)
ココノキ 新潟
コゴ(又はコーゴ)ノキ 山形(飽海、鶴岡、

- 東・西田川)
- コーノキ** 山形(西置賜, 飽海, 西田川)
- コカ** 長崎(北高來, 西彼杵), 宮崎(西諸縣, 宮崎), 鹿兒島(肝屬, 始良)
- コグ** 山形(西田川). この地方の童唄に“コーゴ, コーゴ, 眠れ, 眠らねど, こぐぞ”と云うのがある.
- コクワ** 宮崎(西・北諸縣), 鹿兒島(肝屬)
- コクワノキ** 鹿兒島(始良)
- センダン** 岩手(胆沢, 江刺)
- ジゴクサイカチ** 秋田(北秋田, 仙北)
- ジゴクバナ** 秋田(南秋田)
- ジンゴクマツコー** 秋田(南秋田)
- トコロテンバナ** 新潟(佐渡)
- ネブ** 静岡, 富山, 石川, 福井, 岐阜(飛騨地方), 三重, 和歌山(田辺地方), 山口
- ネブキ** 山形(最上)
- ネプタ** 山形(西置賜)
- ネプタ** 秋田(北秋田), 岩手(胆沢, 江刺) 山形(東田川, 西置賜), 千葉(長生, 夷隅, 安房), 茨城(筑波), 神奈川(津久井) 高知(高岡, 安芸)
- ネプタギ** 秋田(北秋田), 山形(北村山, 西置賜), 宮城(栗原, 宮城), 高知(幡多, 土佐, 安芸), 愛媛(宇摩)
- ネプタゴヌキ** 山形(北村山)
- ネプタノキ** 秋田(山本, 仙北, 鹿角), 岩手(二戸, 胆沢, 気仙), 山形(東・西置賜), 宮城(柴田)
- ネプタノギ** 山形(東・西置賜), 宮城(本吉, 加美, 黒川)
- ネプタンゴヌキ** 山形(北村山)
- ネプッタ** 埼玉(秩父). 七夕の時に竹と一緒に立て, 翌早朝にその一葉を取つて眼をなでると眼病にかゝらぬと云う.
- ネプチャ** 高知(幡多, 高岡, 安芸)
- ネブノキ** 青森(津軽地方, 三戸), 岩手(九戸), 秋田(南秋田), 山形(最上, 新庄), 静岡(伊豆地方), 長野, 福井, 高知
- ネブリ** 山形(飽海), 静岡(伊豆・駿河地方), 岡山
- ネブリギ** 青森(東津軽, 下北), 静岡(駿河), 三重, 和歌山, 廣島, 岡山, 島根, 愛媛, 高知(高岡), 大分, 長崎, 熊本
- ネブリコ** 香川(稜歌), 愛媛(南豫地方)
- ネブリコッコ** 山形(西田川郡福栄村)
- ネブリチャ** 高知(幡多)
- ネブリノキ** 静岡(伊豆地方), 岐阜(北飛騨地方), 廣島(安芸), 山口(周防)
- ネムイノツ** 鹿兒島(始良)
- ネムコカノキ** 宮崎(西諸縣)
- ネムタ** 岩手(胆沢, 東磐井), 宮城(加美, 柴田, 伊具, 黒川, 刈田, 互理), 群馬, 茨城, 静岡(駿河地方)
- ネムタギ** 山形(北・西村山, 西置賜), 茨城, 愛媛(中豫地方), 高知(幡多, 土佐, 安芸)
- ネムタグサ** 山形(北・西村山)
- ネムタヌキ** 山形(北・南村山), 宮城(本吉), 福島(田村)
- ネムタノキ** 岩手(胆沢), 山形(西村山, 東・西置賜), 宮城(本吉, 刈田, 柴田, 伊具), 福島(伊達, 信夫, 田村), 茨城
- ネムタンギ** 山形(西村山)
- ネムッタ** 茨城(那珂)
- ネムッタノキ** 茨城(久慈, 那珂)
- ネムリ** 宮城(柴田), 茨城(眞壁), 静岡(駿河・遠江地方), 岐阜(飛騨地方), 廣島
- ネムリギ** 山形(東・西田川, 新庄, 北村山, 西置賜), 福島(安達), 茨城(鹿島, 東茨城), 島根(石見地方)
- ネムリグサ** 宮城(柴田, 本吉), 茨城(西茨城, 鹿島, 眞壁, 筑波)
- ネムリコ** 山形(東田川), 廣島
- ネムリコーケ** 山形(西田川)
- ネムリコーゴ** 山形(西田川)
- ネムリコカ** 宮崎(宮崎, 南・北諸縣), 鹿兒島(噲啖)
- ネムリコッコ** 山形(西田川)
- ネムリッチョ** 山形(飽海)

- ネムリノキ** 秋田 (由利), 山形 (酒田, 最上, 南・北村山, 西・南置賜), 宮城 (柴田), 福島 (福島), 茨城 (猿島, 鹿島, 筑波, 那珂, 日立), 静岡 (遠江地方), 長野 (下水内), 岐阜 (飛騨地方), 京都 (丹波地方), 兵庫 (丹波地方), 和歌山 (東牟婁), 島根
- ネムリバナ** 山形 (最上, 新庄, 北村山)
- ネムリンギ** 山形 (北村山)
- ネムリンコ** 福島 (石城)
- ネムルギ** 宮城 (登米)
- ネムレ** 山形 (飽海, 酒田), 茨城 (眞壁)
- ネムレネムレ** 山形 (北村山), 宮城 (柴田)
- ネムレノキ** 宮城 (柴田), 茨城 (眞壁)
- ネモッタノキ 茨城 (久慈)
- ネンゴノキ** 青森 (下北)
- ネンズ 三重 (伊勢南部)
- ネンタノキ** 宮城 (刈田, 伊具)
- ネンネコノキ 静岡 (駿河地方), 長崎 (南高来), 佐賀
- ネンネコンボノキ 福岡 (八女)
- ネンブ 静岡 (遠江地方), 兵庫 (播磨)
- ネンブタ** 秋田 (平鹿)
- ネンブリ 静岡, 滋賀, 三重, 奈良, 岡山
- ネンブリキ** 青森 (三戸)
- ネンブリノキ 静岡 (駿河・遠江地方)
- ネンブル 静岡 (駿河地方)
- ネンボノキ** 青森 (西・北津軽)
- ネンムリ** 山形 (酒田), 静岡 (駿河地方), 三重 (伊賀地方)
- ネンムリガッサ** 宮城 (遠田)
- ヒグラシ 福井, 香川 (香川, 大川)
- ホーカンバ 茨城 (眞壁, 筑波)
- マッコ** 山形 (最上), 宮城 (名取)
- マッコノキ** 秋田 (北秋田, 由利), 山形 (最上, 新庄), 宮城 (加美, 黒川)
- マッコヌギ** 山形 (北村山)
- ヨオヨオネブリ 岡山 (岡山)
- ヨネブリ 愛媛 (宇摩)

上に挙げた様に, ネムノキの方言は全国で98通もあるが, 東北地方にも56通が流通し, その中の36通 (全体の36.7%強) が東北地方の特有である。

(5) タニウツギ (*Weigela hortensis* C. A. MEYER.) の方言

タニウツギは廣く山野に自生し, 美しい花を咲かせるので一般に注目される木である。その方言としては, ガザ又はガンザを語幹とするものが多く, ガザキ, ガザノキ, ガンザギ, ガンザノキ, ガザパ等が廣く東北地方に流通している。ザが訛つてジャになり, ガジャ又はガンジャと轉訛する例は, 東北地方では普通に見られることである。

さてガザの語源に就いては未だ納得のゆく解釈がついていない。村井貞固氏は「葉脈粗くガサツの観あるにより」とされ, また秋田縣の植物方言を調査された古家儀八郎氏は, カンザシの様に花が咲くためではなからうかと語られた。

他の植物に就いても屢々ある様に, タニウツギにもその開花期に関連した方言がいくつかある。例えば苗代を作つて畦に泥をぬる頃に花が咲くと云うのでアゼスリバナ, 鬮が盛にとれる頃に咲くと云うのでイワシバナ, 田植の頃に咲くと云うのでタウエバナ等があり, この種の方言は生物季節を示す貴重な資料となる。

タニウツギには1種のダニが沢山たかっていることがよくあるが, それにちなんだ方言が山形縣の内陸方面にある。ダニバナ, スダネ, スダネヌキ, スダレがそれで, スダネはダニの方言である。

タニウツギの髓は軟く白色均質で大きいので, 突き出して乾燥して植物実験に使うピスに利用される。従つて堅い軸が無いと云う意味のジクナシ, ズクナシ, ズクナシウツギ, ズクナシバナ等の方言が生じた。東北弁ではチとツ, ジとズの混同は日常茶飯事であるから, 軸無しがズクナシになるのは当然であろう。

イワシバナと云う方言から導かれて生れた習慣かどうか分らないが、タニウツギを生臭いと云つて佛前に具えることを嫌つたり、カジバナと云う方言が示すように、この花を家の中に持込むと火事になると云う俗信から、切角の美しい花を使わない地方がある。

タニウツギの方言としては次の様なものがある。

- アゼヌリバナ 福井 (全縣下)
- アカウツギ 青森 (下北), 岩手 (二戸)
- アメフリバナ 岩手 (釜石)
- アスキバナ 山形 (東置賜)
- イワシバナ 秋田 (平鹿, 仙北), 山形 (酒田), 新潟
- ウツギ 青森 (西津軽, 上北, 下北), 山形 (最上, 米沢, 西・南置賜), 宮城 (本吉, 柴田, 刈田, 伊具), 福島 (田村), 新潟 (佐渡), 茨城 (鹿島, 眞壁, 筑波), 長野
- ウズラノキ 茨城 (眞壁, 筑波)
- ウノハナ 新潟 (刈羽)
- ウマノハ 茨城 (眞壁, 筑波)
- オンナウツギ 長野 (下水内)
- カイコバナ 山形 (西置賜)
- カキバ 山形 (西置賜)
- カキンバ 山形 (西置賜)
- ガザ 青森 (南津軽), 秋田 (由利, 河辺, 仙北, 南秋田), 山形 (飽海, 酒田, 鶴岡, 東・西田川, 最上, 西・南・北村山, 西置賜), 岩手 (岩手, 稗貫, 胆沢), 宮城 (名取, 柴田, 刈田), 新潟 (刈羽)
- ガザキ 秋田 (鹿角), 岩手 (岩手), 山形 (新庄, 最上, 北村山)
- ガザシバ 青森 (北津軽), 岩手 (東磐井)
- ガザノキ 山形 (北村山), 宮城 (宮城)
- ガザバ 山形 (北村山, 西置賜)
- カジバナ 山形 (東田川), 新潟 (刈羽)
- ガジャ 青森 (中・西・南津軽), 秋田 (鹿角, 北秋田)
- ガジャシバ 青森 (津軽地方, 上北, 下北), 秋田 (北秋田), 岩手 (紫波, 岩手)
- カテナノキ 新潟
- ガジャツバ 青森 (三戸)
- カラウツギ 青森 (上北, 三戸)
- カワラウツギ 山形 (西置賜), 茨城 (久慈)

- ガンザ 青森 (下北), 秋田 (南秋田), 岩手 (岩手, 稗貫), 山形 (飽海, 酒田, 鶴岡, 東田川, 北村山)
- ガンザギ 山形 (東田川, 最上)
- カンザシバナ 山形 (酒田)



第8図 タニウツギの方言分布図
 黒色区域はウツギ, 黒点区域はヅクナシ 又はヅクナシバナ, 横線区域はウツギの接頭語を示したもの (例えば下北半島のアカのはアカウツギの意), 縦線区域はイワシバナの分布を示す

- ガンザノキ** 秋田(山本)
ガンザノハナ 山形(飽海)
ガンジャ 青森(東・西津軽)
ガンジャシバ 青森(下北, 西・北津軽),
 秋田(北秋田)
ジクナシ 岩手(稗貫), 山形(西田川)
ジクナシバナ 山形(西田川)
 シャボングサ 新潟
ズクナシ 岩手(稗貫, 紫波), 福島(信夫,
 伊達), 新潟(西蒲原)
ズクナシウツギ 岩手(紫波)
ズクナシバナ 山形(鶴岡, 東・西田川)
スタネ 山形(西置賜)
スタネヌキ 山形(北・西村山)
スタレ 山形(北村山)
 ソートメツツジ 徳島(美馬)
- ゴーロッパ 新潟(刈羽)
 タウエバナ 新潟(刈羽), 鳥取(日野)
ダニバナ 山形(最上)
 テマルコ 高知(幡多)
ドーノスネ 福島(信夫, 伊達), 新潟(刈羽)
 ドーロッパ 新潟
ドマヌギ 山形(北村山)
 ハノウツギ 新潟(佐渡)
ベニウツギ 山形(飽海, 北村山, 西置賜),
 福島(福島, 石城)
ヘビバナ 山形(北村山)
ホネカラハサミ 山形(北村山), 火葬場で
 骨拾い使うため.
ヤマウツギ 岩手(和賀)
ヤマガザ 山形(西田川)
 ローロッパ 新潟(刈羽)

上に記した通り, 全国で56通の方言の中で, 東北地方に通用するのは41通もあり, しかもその中の34通(全体の60.7%強)が東北地方の特有と云う高い比率を示している。

(6) サワグルミ (*Pterocarya rhoifolia* SIEB. et ZUCC.) の方言

我が国の山地の水辺に生ずるサワグルミも, 東北地方では下駄材其の他として一般に利用される樹種である。

東北地方で通用するサワグルミの方言は餘り多くはないが, 極めて変つたものがある。それはヤシ(ヤシノキ)又はヤス(ヤスノキ)で, 裏日本では山形縣の内陸地方から秋田縣全体に分布し, 表日本では宮城縣下に少しあるばかりで, 岩手縣下で廣く分布し, 青森縣では全縣的に流通している様である。これに反して, 本州でやや廣い分布を示す方言のヤマギリは, 東北地方では僅に岩手縣の一部と山形縣の庄内地方と福島縣下に少し見られるだけである。

此処にも山形縣の方言分布区域を内陸地方と庄内地方とに区分する例証が見られる。即ち地方ではサち庄内ワグルミと云う正しい和名は殆んど行われず, 一般にヤマギリが通用しているのに, 内陸地方では最上地区にヤスが, 村山・置賜地区にヤシが通用している。

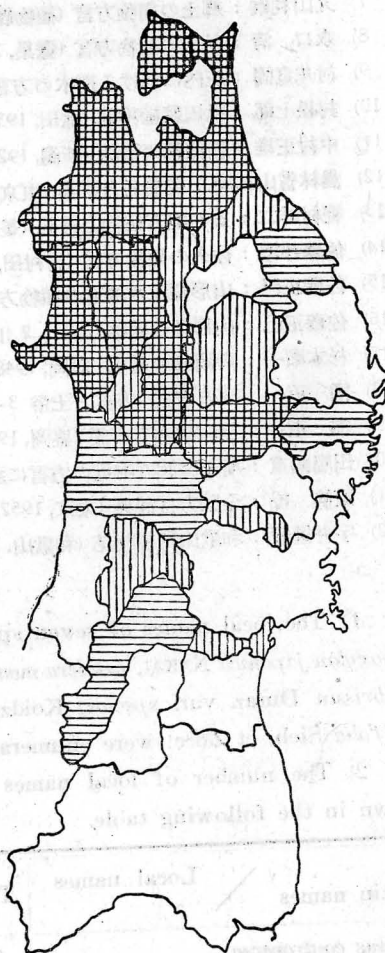
庄内地方の植物方言は同じ山形縣の内陸地方よりはむしろ新潟縣により密接な共通性を示している例があるが, サワグルミの方言については殆んどその傾向が見られないのは注目すべき例である。

サワグルミの方言を全国的に拾つて見ると次の様なものがある。

- カグルミ** 岩手(上閉伊, 和賀), 山形(飽海, 北村山)
カワクルミ 山形(西置賜), 宮城(刈田, 栗原, 玉造, 本吉, 名取, 伊具), 長野(下水内, 下高井), 新潟, 鳥取(岩美)
カワグルミ 青森(上北, 下北), 秋田(北秋田), 岩手(九戸, 稗貫, 和賀, 胆沢, 下上閉伊, 気仙, 西磐井), 山形(飽海, 最上, 西・北村山, 米沢), 宮城(本吉, 加美, 黒川, 宮城, 名取), 福島, 群馬, 栃木, 埼玉, 茨城, 静岡, 鳥取(岩美地方), 島根(石見地方)

- カワクリ 富山 (下新川)
カワコ 宮城 (柴田)
 カワス 三重 (南・北牟婁), 和歌山
 カワノブ 島根 (隠岐), 高知 (高岡)
クルミ 宮城 (本吉, 伊具, 柴田, 刈田),
 静岡, 鳥取
 グルミ 岡山, 徳島 (美馬)
 クロンゴ 長崎 (上縣, 下縣)
 コークル 新潟 (刈羽)
 コークルミ 新潟 (佐渡), 富山
 コークルビ 岐阜 (飛騨地方)
 コーダ 鳥取 (伯耆地方), 島根 (出雲地方),
 岡山
 コグメ 長崎 (南松浦)
 コグルビ 岐阜 (飛騨地方)
 コグルミ 石川 (加賀地方), 福井 (越前地
 方), 富山 (越中地方), 岐阜 (飛騨地方),
 岡山
 サワックルミ 新潟
 サンクルミ 岐阜 (飛騨地方)
 シロキ 愛媛 (新居), 高知 (土佐)
 シルミ 宮崎 (児湯, 宮崎, 東杵)
 タズ 三重, 和歌山
ノグルミ 山形 (東置賜), 福岡 (早良)
 ノブ 兵庫, 鳥取 (因幡地方), 熊本 (菊地),
 長崎 (東彼杵), 高知 (土佐, 長岡, 香美,
 高岡, 吾川, 安芸, 幡多), 愛媛 (新居,
 上浮穴, 宇摩)
 ハノブ 長崎 (東彼杵)
 ホーグルミ 岐阜 (飛騨地方)
 ボヤ 三重 (紀伊地方), 和歌山 (紀伊地方)
 ホンクルミ 三重 (紀伊地方), 和歌山
ヤシ 青森 (津軽地方, 上北, 下北), 岩手
 (稗貫, 和賀, 上閉伊, 九戸), 秋田 (南・
 北秋田, 本山), 山形 (北村山, 西置賜)
ヤシノキ 青森 (上北, 北津軽), 秋田 (南・
 北秋田, 仙北, 由利, 山本), 岩手 (二戸)
ヤス 青森 (津軽地方, 上北, 下北, 三戸),

- 岩手 (岩手, 稗貫, 紫波, 和賀, 西磐井, 気
 仙), 秋田 (南秋田, 仙北, 河辺), 山形 (最上)
ヤスノキ 青森 (上北, 下北), 秋田 (鹿角,
 北秋田, 仙北, 山本), 宮城 (宮城)
ヤマギリ 岩手 (九戸, 紫波, 和賀), 山形
 飽海, 東・西田川, 鶴岡), 福島 (福島),
 静岡 (駿河地方), 岐阜 (美濃地方), 鳥取
 (因幡地方), 島根 (石見地方)
ヤマグルミ 山形 (東置賜)



第9図 サワグルミの方言分布図
 横線区域はヤシ又はヤシノキ, 縦線区域はヤス
 又はヤスノキの分布を示し, 縦横線区域は両者
 の共存を意味する

以上に示した様に, 日本全国で総計34通の方言を拾い集めたが, その中で東北地方に通
 用しているのが12通, しかも東北地方の特有のものが僅に7通 (全体の20.6%弱) と云う

比率で、ミズキの35.7%、ヤマボウシの27%、クロモジの33.3%、ネムノキの36.7%、タニウツギの60.7%に比較すると著しく低い比率を示すことは、不思議な現象である。

参 考 文 献

- 1) 青森営林局：三陸植物誌(青森, 1935)
- 2) 秋田営林局：管内国有林植物目録(秋田, 1934)
- 3) 千代延尙寿：石見の樹木方言(方言 3: 916-921, 1933)
- 4) 小林 新：私の研究 29. 秋田縣の植物(大館, 1951)
- 5) 高知営林局：四国樹木名方言集(高知, 1936)
- 6) 孫福 正：郷土の生物方言調査(宇治山田, 1933)
- 7) 丸山利雄：郷土の植物方言(植物趣味 6: 128-134, 1938; 7: 17-22, 4 64-74, 1938)
- 8) 水口 清：秋田の植物方言(鷹巣, 1930)
- 9) 村井貞固：庄内に於ける樹木の方言と其由來の考察(庄内博物学会研究録 4: 40-56, 1940)
- 10) 村松七郎：秋田縣植物誌(秋田, 1932)
- 11) 中村正雄：新潟縣天産誌(新潟, 1925)
- 12) 農林省山林局：樹種名方言集(東京, 1932)
- 13) 笹村祥二：釜石地方植物方言誌(釜石文化資料, 1952)
- 14) 佐藤邦雄：佐久の植物方言(岩村田, 1950)
- 15) 佐藤正己：山形縣庄内地方の植物方言(山形農專研究報告 3: 1-49, 1950)
- 16) 佐藤正己：山形縣の植物方言 1, 2(山形農林学会報 1: 39-44, 1951; 2: 38-44, 1952)
- 17) 杉本順一：静岡縣の植物(静岡, 1948)
- 18) 橋 正一：樹の方言(方言と土俗 3-7: 1-10, 1932)
- 19) 橋 正一：全国植物方言集(盛岡, 1939)
- 20) 田嶋福重：埼玉縣熊谷附近の方言に遺る 2, 3 の古語(山大紀要, 人文科学 1: 103-110, 1950)
- 21) 東條 操：全国方言辞典(東京, 1952)
- 22) 宇井縫藏：和歌山縣植物誌(和歌山, 1929)

Summary

1) The local names of seven species of trees such as *Cornus controversa* Hemsl., *Cynoxylon japonica* NAKAI, *Lindera membranacea* Maxim. and *L. umbellata* Thunb., *Albizia Julibrissin* Duraz. var. *speciosa* Koidz., *Weigela hortensis* C. A. Meyer, and *Pterocarya rhoifolia* Sieb. et Zucc. were enumerated in this paper.

2) The number of local names used in Tôhoku-District and its specificity are shown in the following table.

Latin names	Local names	Total	Total	specific	common	Outside of Tohoku
			in Tohoku	to Tohoku	with other distr.	
<i>Cornus controversa</i>		70	31	25	6	39
<i>Cynoxylon japonica</i>		37	12	10	2	25
<i>Lindera membranacea</i> & <i>L. umbellata</i>		38	18	13	5	21
<i>Albizia Julibrissin</i>		98	56	36	20	42
<i>Weigela hortensis</i>		56	41	34	7	15
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		33	9	6	3	24